

米国大統領選挙の結果について
ぶら下がり会見発言要旨(未定稿)

日時： 2016年11月9日(水) 15:40~15:50
出席者： 小林 喜光 代表幹事

Q: 米国大統領にトランプ候補が当確という形になったが、受け止めに伺いたい。

小林: 事前の世論調査、特に大手新聞社は皆、クリントン(候補が優勢)と報じていた。(トランプ候補は、)共和党の中でも17人の候補から生き延び、ここまで善戦してクリントン候補にまで勝ったことは、驚きを持って受け止めた。米国民の選んだことなので、我々はそれを受け止めて、今後、どういう形で新しいコミュニケーションを始めたらいいか(を考えるべき)ということだろう。Brexitに続いて、グローバル化が進む時代に、一方で保護主義的、民族主義的な方向(に向かっている。)それも、非常に先進的な国家であった人々(米国民)がそのような道を選ぶということは、デモクラシーとグローバリズム(の見直しという点で、)三角形の高い頂点から治めるということではなく、分散化していると言えるのではないか。グローバル化という統合を目指していたはずだったものが、極めて個々人が独立した形で、SNSを中心としたソーシャルメディアもあり、これまでの確立していたものを壊す(という動きが起こっている)。オバマ大統領は「Change」を掲げていたが、今回ははっきりすると「Return」になりかねない。かつての中産階級あるいは白人の社会に戻ろうという、「隠れトランプ」のような人が結構いたのだと、事実として受け止めざるを得ない。

Q: 日本経済という視点では、トランプ新大統領とどのように付き合いしていくべきか。

小林: 短期的には、本日株価は1,000円も下がり円高も進んでいる。急激なリスクオフ、リスクを回避しようという流れが激しくなっている。クリントン候補が大統領になれば、FRBも12月には利上げをするだろうと見られていたが、トランプ氏が大統領に決まったことで、リスクを考えるとそう簡単にはいかないかもしれない。(トランプ氏は)FRB議長の交代にも言及しており、当座はいろいろなことが起こるかもしれない。ただし、クリントン氏が大統領になっていたとしても、本質的にはドル安方向に持っていこうという政策だろうし、長期的には、FRB議長の人選を含め、どのような閣僚を選ぶかを見てみないと、今は何とも言い難い。

Q: TPPの先行きは厳しくなってきたが。

小林: 大変に厳しいだろうが、オバマ大統領のレームダック・セッションにはまだ若干期待ができる。ただし、(一旦批准したとしても)新大統領になった時点で反故にする危険性を考えると、かなり悲観せざるを得ない。

Brexitの際、日本企業が英国に留まるべきか撤退すべきかという議論もあったが、米国の場合は少なくとも、すでに米国に進出している企業は現地で雇用も生んでおり、問題は貿易がどうなっていくのかということで、そこは注視していかななくてはならない。

Q: 今回の結果のインパクトについて、Brexit に比べていかがか。

小林: 世界経済に与える影響は、Brexit とはケタが違うだろう。米国こそが世界経済の牽引者であり、それが保護主義的になっていくとすれば、少なくとも当座はトランプ氏が大統領選の中で述べられたことを実行に移すと想定すれば、米国内の日本企業の行動や貿易の問題以前に、為替や株価のインパクトは大きいだろう。世界の警察官という役割は止めるのだろうが、(トランプ氏は)個別に防衛等に関する意見は述べられるだろうから、その辺りについてもコミュニケーションをとることが一番重要である。

Q: 日本の経済界にはトランプ氏との人脈がほとんどないと言われているが、その辺りはどう対処をすればよいのか。

小林: 今までは、かなりの人がクリントン氏が大統領になると考えていた。今からでも(コミュニケーションは)遅くないし、チャンネルを開いていく(必要がある)。閣僚人事もこれからだが、そこをひも解いて、コミュニケーションの場をつくっていくことになるだろう。

Q: トランプ氏が現実路線に転換するという期待はあるか。

小林: 共和党の 17 人の候補の中から勝ち抜き、今回もクリントン氏に勝ったということで、非常にマネジメント(能力)とリーダーシップの強い人だろう。閣僚からのいろいろな意見を聞く耳は持っていると思う。選挙戦術としていろいろ述べておられたが、現実に大統領になった後の本当の戦略はまた違うのではないかと期待したい。

Q: 予想に反する結果が出たことで、企業経営者として何かアクションをとったか。

小林: 今日、11 時くらいからちょっと様子がおかしいと感じていたが、株価は上がっていた。13 時頃には急激に株価が下がった。自社(三菱ケミカルホールディングス)も、昨日決算発表をして結構良い結果だったが、大きく下がったのでショックではあるが、仕方がない。

Q: トランプ新大統領がホワイトハウスに入って実際に政策が出てくるまでには、まだ少し時間がある。あまり一喜一憂すべきではないと思うが、日米関係をどう考えるか。

小林: 防衛は防衛のプロがいるだろうし、グローバル経済の政策を進めるプロもいるだろう。上・下院とも共和党が過半数を取ってねじれもなくなったので若干やりやすくなるだろうが、大統領ひとりですべてを進められるとは思わないので、じっくり見ていきたい。米国民が選挙で選んだことなので、尊重しなくてはならない。

Q: 短期的には、為替はかなり円高に進むのではないか。

小林: それは間違いないだろう。株価の下落も今日で止まってくれば良いか、どうなるかわからない。

Q: 経済同友会に、トランプ氏と面識があるメンバーはいるか。

小林： 9月にワシントン D.C.を訪れたが、トランプ氏と親しいという人は、私の知る限りいない。

以 上

(文責： 経済同友会 事務局)